

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-277141

(43)公開日 平成6年(1994)10月4日

(51)Int.Cl.⁵
A 47 J 17/02
43/28

識別記号
2114-4B
2114-4B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 O.L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平5-70505
(22)出願日 平成5年(1993)3月29日

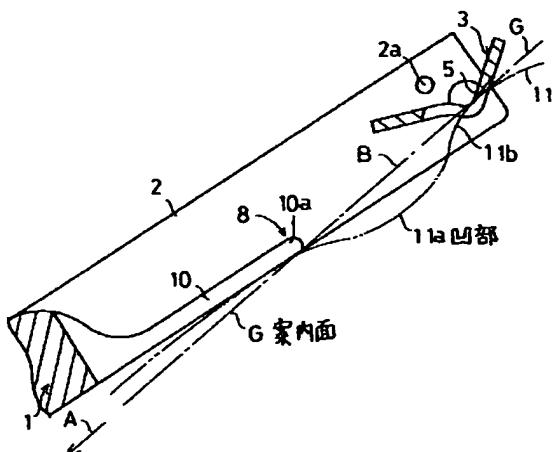
(71)出願人 000001454
株式会社貝印刃物開発センター
岐阜県関市小屋名1110番地
(72)発明者 斎藤 達也
岐阜県関市小屋名1110番地 株式会社貝印
刃物開発センター内
(74)代理人 弁理士 恩田 博宣

(54)【発明の名称】 皮むき具における被切断物案内構造

(57)【要約】

【構成】 柄1に刃体3が取付けられているとともに、この刃体3の刃先5に対向して案内縁部6が設けられている。この案内縁部8には弾性部10が設けられている。この弾性部10と刃先5とを結ぶ案内面Gが弾性部10の撓みにより変更できるようになっている。刃先5と弾性部10とを食品11の表面に押し付けて当てがいい、柄1を引くと、弾性部10が撓んで食品11の凸部分11bがこの弾性部10の動きに追従し、刃先5が食品11の凹部分11a内にくい込んでこの凹部分11a内の皮が剥き易くなる。

【効果】 食品11の凸部分11bばかりではなく、その凹部分11a内の皮を確実に剥くことができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 柄(1)に刃体(3)を取付けるとともに、この刃体(3)の刃先(5)に対向して案内縁部(8)を設けた皮むき具において、前記案内縁部(8)に弾性部(10)を設け、この弾性部(10)と刃先(5)とを結ぶ案内面(G)を弾性部(10)の撓みにより変更し得るようにしたことを特徴とする皮むき具における被切断物案内構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は例えば食品用皮むき具において使用時に食品を案内する構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の皮むき具としては、例えば図4及び図5に示すものがある(実開昭62-90027号公報参照)。この皮むき具においては、柄1の両支持腕2間に刃体3が回動可能に支持され、この刃体3の刃先5に対向して柄1に案内縁部8が案内孔9を介して形成されている。そして、刃体3の刃先5と案内縁部8とを食品11の表面に押さえ付けて当てがい、刃先5と案内縁部8とを結ぶ案内面Gに沿って柄1を移動方向Aで引くと、刃先5が案内面G上の移動軌跡Bに沿って食品11の表面上を動く。従って、刃先5が食品11の表面にくい込んでその表面の皮が剥ける。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、食品11の表面に大きな凹凸部11a, 11bがあると、前記刃移動軌跡Bに対し凹部分11aの内底面が大きく離れるため、刃先5が凹部分11aにくい込みにくくなり、凸部分11bの皮は剥けるが、凹部分11aの皮は残り易くなる。

【0004】本発明は食品の凹部分の皮も剥き易くした皮むき具を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】後記する実施例の図面に説明するように、本発明にかかる皮むき具においては、柄1に刃体3が取付けられるとともに、この刃体3の刃先5に対向して案内縁部8が設けられている。この案内縁部8には弾性部10が設けられている。この弾性部10と刃先5とを結ぶ案内面Gが弾性部10の撓みにより変更できるようになっている。

【0006】

【作用】図2及び図3に示すように、刃先5と弾性部10とを食品11の表面に押さえ付けて当てがい、柄1を引くと、弾性部10が撓み、食品11の凸部分11bがこの弾性部10の動きに追従し、刃先5が食品11の凹部分11a内にくい込んでこの凹部分11aの皮が剥き易くなる。

【0007】

【実施例】以下、本発明の一実施例にかかる皮むき具を図1から図3を参照して説明する。

【0008】柄1の上端部に両支持腕2が二股状に形成されている。刃体3は前後左右各枠部3a, 3b, 3c, 3dからなり、その各枠部3a, 3b, 3c, 3d間に内孔4が形成されているとともに、その内孔4で後枠部3bに刃先5が前枠部3aに対向して形成されている。刃体3の左右両枠部3c, 3dに支持突起6が形成されているとともに、前記両支持腕2に支持孔7が形成され、この両支持突起6が両支持孔7に挿入されている。従って、両支持孔7を結ぶ中心線C回りで刃体3が回動可能に支持される。なお、両支持腕2の内側には、刃体3の回動を阻止するストップ2aが突設されている。

【0009】前記刃体3に対向する柄1の上端部に案内縁部8が設けられ、この案内縁部8と刃体3と両支持腕2との間に案内孔9が設けられている。特に、この案内縁部8において、櫛歯状の弾性部10が刃体3に向けて延設されている。この弾性部10の有無が従来の皮むき具と比較して異なる。

【0010】さて、図2及び図3(a)に示すように、刃先5と弾性部10とを食品11の表面に押し付けて当てがい、刃先5と弾性部10とを結ぶ案内面Gに沿って柄1を移動方向Aへ引くと、刃先5が案内面G上の移動軌跡Bに沿って食品11の表面上を動く。

【0011】食品11の表面に大きな凹凸部分11a, 11bがある場合に、柄1の弾性部10を食品11の表面に対しさらに押さえ付けると、図3(b)に示すように弾性部10の先端部10aが上方へ撓み、食品11の凸部分11bがこの先端部10aの動きに追従する。従って、柄移動方向Aに沿う刃移動軌跡Bに対し案内面Gが弾性部10の撓み量だけ上方へ傾斜し、刃移動軌跡B上にある刃先5が食品11の凹部分11a内にくい込んでこの凹部分11a内の皮が剥き易くなる。一方、柄1に対する押圧力を弱めると、弾性部10が復帰して図2及び図3(a)の状態に戻る。

【0012】このようにして柄1に対する押圧力を変更することにより、柄1の弾性部10が撓むので、大きな凹凸部分11a, 11bを有する食品11においてその皮を確実に剥くことができる。

【0013】前述した実施例では両支持腕2間で刃体3が回動する形式のものを示したが、この刃体3を両支持腕2間で回動不能に固定しても良い。

【0014】

【発明の効果】本発明にかかる皮むき具によれば、刃先5とともに食品11に当てがわれる案内縁部8で弾性部10を設けたので、刃先5が食品11の凹部分11a内にくい込み易くなる。従って、食品11の凸部分11bばかりではなく、その凹部分11a内の皮を確実に剥くことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例にかかる皮むき具を示す一部切欠正面図である。

【図2】図1のX-X線部分拡大断面図である。

【図3】(a)及び(b)はそれぞれ作用説明図である。

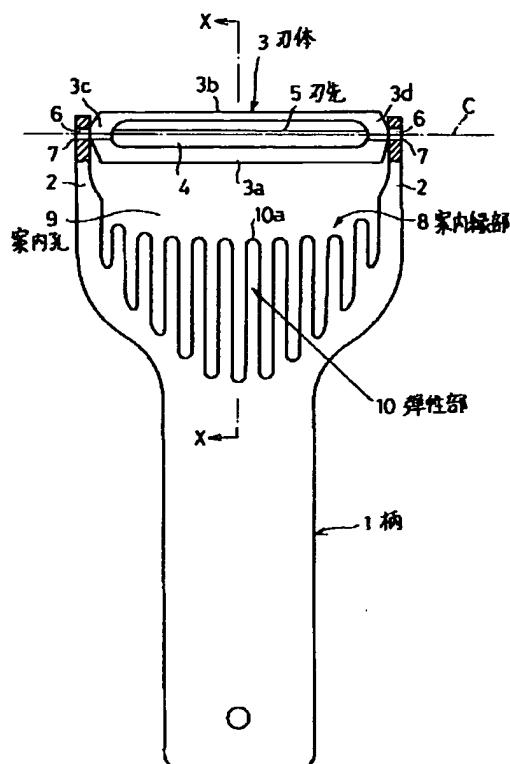
【図4】従来の皮むき具を示す正面図である。

【図5】図3のY-Y線部分拡大断面図である。

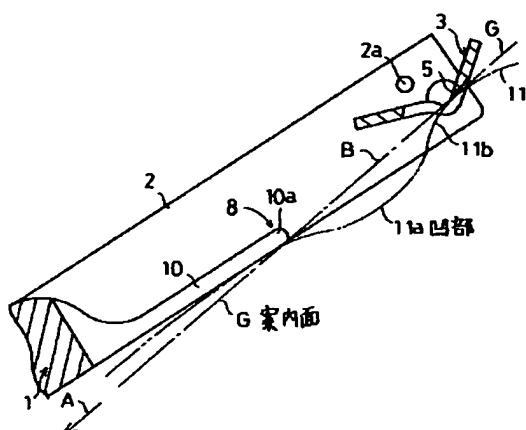
【符号の説明】

1…柄、2…支持腕、3…刃体、5…刃先、8…案内縁部、9…案内孔、10…弾性部、11…食品、11a…凹部分、11b…凸部分、A…柄移動方向、B…刃移動軌跡、G…案内面、 δ …弾性部撓み量。

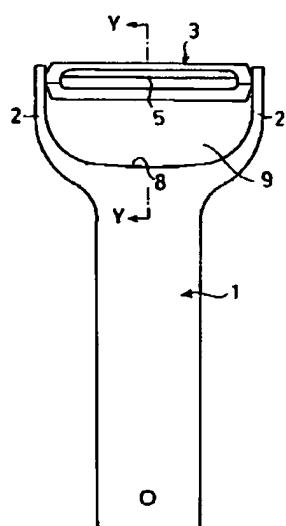
【図1】



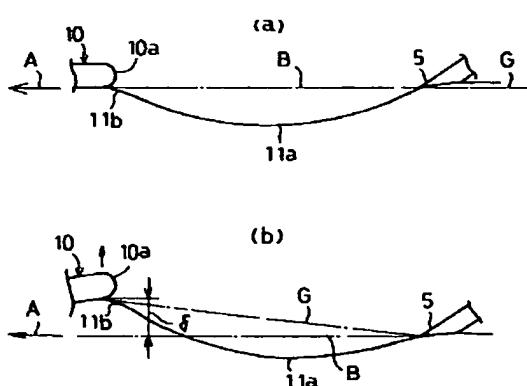
【図2】



【図4】



【図3】



【図5】

